

内航フィーダーコンテナ航路が再開

震災後初のコンテナ船入港

東日本大震災の影響によって中断していた、東京港・横浜港と相馬港を結ぶ「内航フィーダーコンテナ航路」が12月17日に再開しました。

相馬港は、震災における地震や津波によりコンテナを荷役するクレーンが倒れるなど、甚大な被害を受けましたが、今回の寄港では、公益法人ヤマト福祉財団の「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生助成事業」により整備・修理した、代替クレーン、リーチスタッカー、及びスプレッダーを使用して荷役作業が行われました。

入港船

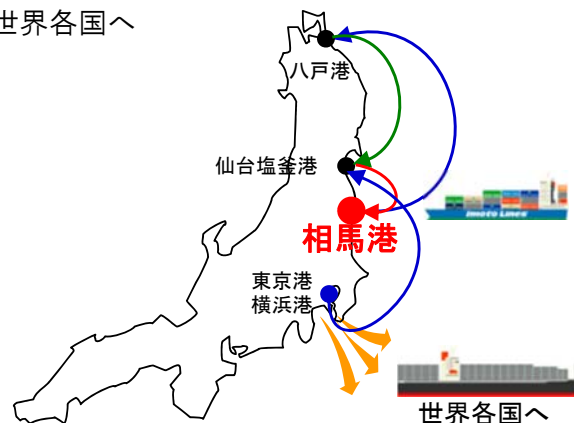
- ・船名:「神若」
- ・総トン数:749t
- ・接岸場所:1-3バース
- ・積載貨物:40ftコンテナ(金属機械工業品)×3本
40ftコンテナ(空)×8本



▲代替クレーンによる荷役作業

寄港スケジュール

東京港・横浜港(木)→仙台塩釜港/相馬港(金/土)→
八戸港(日)→仙台塩釜港(月)→東京港・横浜港(火)→
世界各国へ



現在、震災の影響で国道6号線が通行できずに、山越えでの貨物輸送を強いられている相双地域の貨物を相馬港で扱うことにより、冬場の山越えのリスクが無い「安心・安全」な輸送の確保と「CO2削減」による環境に優しい輸送に寄与できます。

